

# やすらぎ通信

第11号 (平成23年10月1日) 発行：大阪府立急性期・総合医療センター

神無月(神在月)

## 赤とんぼ

三木露風 作詞 山田耕筰 作曲

夕やけ小やけの 赤とんぼ

負われて見たのは いつの日か

山の畑の 桑の実を

小籠に摘んだは まぼろしか

十五で姐やは 嫁に行き

お里のたよりも 絶えはてた

夕やけ小やけの 赤とんぼ

とまっているよ 竿の先

季節はさらに進みいよいよ10月。万代池の風景も徐々に秋模様に変化を遂げつつあります。春から初夏にかけてのあざやかな若い生命が躍動するような生き生きとした風景も素晴らしいですが、秋から初冬にかけての色とりどりの円熟味のある万代池の風景も格別で、私たちの心をやさしく包んでくれます。

さて、先日NHKラジオ深夜便を聴いていますと、石巻市の黄金浜(こがねはま)という被災地で、ボランティア活動を展開されている藤田利彦さんという49歳の男性が、自らや家族の悲惨な被災体験と、なぜ被災者である自分がボランティア活動を始めたかについて次のように語っていました。

今回の震災と津波は自分たちから全てを奪い去った。愛している家族、家や財産、仕事が一瞬のうちに無くしてしまった。津波は本当に憎らしい。しかし、その後、建物が流されなかった黄金会館(こがねかいかん)という会館を拠点に、地域に残されたお年寄りなどの支援をする活動を行う中で、津波は憎いけれども、この津波の結果として、通常では得ることのできない大きなものを自分は得たと思っている。それは、全国からボランティアに入ってくれた多くの人たちとの心の「絆」だ。本当に多くの人たちとの人的ネットワークができたことだと。

彼がそのことを語るには、この黄金浜地区の被災後の事情があります。

黄金浜地区は被災後、地域が海の中に水没し、水深3メートルにもなった海の水はなかなか引かなかったそうです。震災直後から、地区の生き残った高齢者たちは水に浸かった1階に下りることができずに、2階に留まって水も食料もない状態でひたすら救助を待つという生活を余儀なくされたそうです。また、携帯電話も全く繋がらず外部との連絡が完全に途絶した地域になったそうです。そのため、警察、自衛隊なども全く入って来ない状態におかれ、また、震災後多くのボランティア団体が被災地に入りましたが、行政の開設した避難所(学校の体育館)にはやってくるものの、黄金浜地区のような孤立した地区は存在自体知らていなかったため、ボランティアによる水や食料の支援も全くない状態におかれていたそうです。

そこで、彼は、一緒に暮らす家族が一人もいなくなったこともあり、地域の人たち全員が家族だとの思いから、倒壊だけは食い止められた地区内の黄金浜会館を拠点に取り残された高齢者などを支援する活動を始めようと決心しました。

そして、まず、とにかく水や食料を待っている高齢者がなんとかそれらを手に入れることができるには、全国から来ているボランティア団体のうち一つでもいいから黄金浜地区に足を踏み入れてもらわないとどうにもならないと思い、こういう孤立した地区があるんだ、そこでは、高齢者が水や食料もなくひたすら支援の手が入ることを今か今かと待っているんだということを知ってもらう活動を始めました。そのために、走っているボランティア団体のトラックの前に立ちふさがり車を止めて黄金地区への緊急支援の必要性を直訴したり、避難所に出向き、

そこに来ているボランティア団体のリーダーたちに黄金浜地区の実情を訴える活動を行いました。

さすがに、最初はボランティア団体の人たちは胡散臭そうにしていたようですが、それでも彼は無理矢理に引っ張って行ったそうです。その結果、悲惨な状態におかれた黄金浜の惨状が初めて知られるようになりました。

こうした彼の捨て身の行動により、徐々にボランティアが入ってきました。会館を中心に水や食料の供給が始まったそうです。うまく回り出すとうまく回るもので、その後は、こういった場所にこそと、黄金浜を目指してくるボランティアも増えだしました。ついには、有名な九州ラーメン党の濱田さんまで来てくれたそうです。その時に食べたラーメンの味は皆格別だったそうです。

(注)NPO法人ボランティア仲間九州ラーメン党…熊本県でラーメン屋を始めた濱田龍朗氏が、近くに障がい者福祉施設ができたのをきっかけに障がい者との交流を体験、ラーメンの出前を通じ障がい者を支援するボランティア活動を始めた。ラーメン党のホームページによると、現在障がい者だけでなく高齢者や災害被災者などの支援の活動も行っている。

7月には、会館の舞台を活用して1日だけの映画祭もやったそうです。当日は映画制作に携わる方々も来られずいぶんと盛り上がったようです。

震災から半年、まだまだ、復興とまではいかない厳しい現実がありますが、彼の心は、今や復興に向けて前を向き歩み始めています。この黄金浜地区のボランティアの拠点になった黄金浜会館の再建です。いつの日か再び津波が襲ってきたときに今度こそ住民の避難所としても使えるように4階建て以上の鉄筋コンクリートの建物に建て替えることが彼の今の目標となりました。

彼は語ります。「4階建ての1階は避難所にはなりません。1階は食料品店にしたいと思っています。震災以降、食料品店やスーパーは全てなくなりました。今はボランティアの支援がありますが、いつまでもというわけにはいきません。肉や魚や野菜が必要です。ようやく魚屋が1軒再開しましたが、肉や野菜や食品を買う場所がどこにもないのです。高齢者も子どもを抱えたママさんも食料品店がこの地区になれば生活できません。だから、まず1階には地域の人が利用できる食料品店を作ろうと思っています。そして2階以上は次の津波が来た際の避難所にする予定です。」

彼の今の新しい目標です。しかし、4階建ての会館を建てるには莫大なお金がかかります。しかも、この会館は公立ではないため、行政に頼ることができないのです。

「お金をどうするのか」とインタビュアーは聞きました。彼は、「お金は確かにありません。しかも4階建てとなると相当な資金がいります。私には金はないけれど、震災以降培ってきた多くの人びととの「絆」があります。多くの人的ネットワークができました。その中には、有名な

若手の映画監督、大会社の重役、大学の教授など社会的に大きな影響力を持っておられる方々がおられます。彼らは、ボランティアに入ったときは、全く名乗りませんでした。名乗らずみんなと同じボランティアとして、黙々とがれきの撤去などをしていたのです。後になって、そのような方々だと知りました。またそうした方々とは別に多くの知恵を出すのが得意な人たちや何か得意技を持っている人たちがいます。新しい会館を作ろうとしたとき、私に知恵が出てこなければ、そういった知恵を持っている人たち、多くのチャンネルを持っている人たちの力を借りればよいわけです。

私は、この新しい会館は、阪神大震災の復興にも力を入れられた著名な建築家をお願いしたいと思っています。彼くらいになると、こういうシンボリックな建築物を建てる際にはスポンサーを連れてきます。私は、その著名な建築家とは一面識もありません。しかし、ボランティアで来て下さった方の中に、その建築家と直接または間接に繋がりのある方がいらっしゃるのです。新しい会館への私の熱い思いをきちんと説明できるものを作れば、その建築家に話をしてあげましょうと言ってもらっています。」と熱く彼は語っていました。

実は、彼は番組の冒頭このように言っていました。「私は地震が起こったときに、母とともに家にいました。何故いたかという、その前に長年勤めてきた会社を辞めていたからです。年は取っているけれども医療の道に進もうと思って、大学の医学部を受験するための受験勉強中だったのです。その最中に地震と津波に遭遇しました。

母は1階にいて救助を求めてきた叔母を何とか助けようと思い、必死で叔母(母の妹)の名を呼んでいました。私は母に早く2階に上がれと叫んでいたのですが、叔母を見捨てることができなかつたのでしょう。母は何とか1階の扉を開けて叔母を中にいれようとしていました。母は叔母の名前を呼び続けていました。しかし、母も叔母もさらわれました。母と叔母とを目の前で、津波で亡くしたのです。私も津波にさらわれましたが、奇跡的に海面に顔を出すことができ呼吸ができました。気が付けば沖に2キロメートルほど流されていました。」

彼の夢は医師になることでした。この震災はその夢を頓挫させました。しかし、その後出会った多くの人々との「絆」を頼りに、前向きにたくましく生きて行こうとしています。その彼の目の前にあるのが新しい黄金浜会館の建設という大きな目標なのです。

「絆」…人は一人ではない。これほど、人間に生きる勇気と力を与えてくれるものはない、彼の語りを聞いてそのように感じました。

当センターとしましても、おかれている状況は全く異なりますが、この「絆」という言葉を大切に、地域の方々との出会いや結びつきを深めていきたいと考えております。

さて、いよいよ3日から、連携事業「生と死を、今考えるⅡ -やすらぎのがん医療-」と「糖尿病予防セミナー」の受付開始です。今回も多くの方々との出会いを楽しみにしております。よろしくお祈いします。

## NEWS

### 【(再) 大阪府立急性期・総合医療センター×相愛大学×森ノ宮医療大学連携 シンポジウム 生と死を、今考えるⅡ -やすらぎのがん医療-

日 時 11月5日(土) 午後1時～5時

場 所 当センター3階講堂

内 容

基調講演 相愛大学人文学部教授 積 徹宗

「日本文化から見た<sup>いのち</sup>生命のやすらぎ」

関連講演 森ノ宮医療大学保健医療学部教授 坂出 祥伸

「東洋医学の身体観、人間観」

当センター副院長 田中康博

「終末期医療の課題と展望」

パネルディスカッション

「やすらぎのがん医療の実現に向けて - 課題と提言」

(パネリスト)

当センター小児外科部長 (緩和ケアチーム長)

吉田 洋

当センター精神科病棟看護師長 (緩和ケアチーム看護師長)

嶋路 紀子

森ノ宮医療大学保健医療学部鍼灸学科教授

山下 仁

相愛大学客員教授・大蓮寺住職・應典院代表

秋田 光彦

当センターがん患者会 (ひまわりの会) 会長

山田 義美

(コーディネーター)

毎日放送

大谷 邦郎

申 込 10月3日(月)～31日(月) (先着200名)

専用電話 06-6692-2222 または

当センターホームページ「セミナー申込み」から

## 【(新) 急性期・総合医療センター×相愛大学連携 糖尿病予防セミナー】

- 日 時 11月12日(土) 午後1時30分～3時30分
- 場 所 当センター3階講堂・渡り廊下、保健教室等
- 内 容 (1) ミニ講座 当センター糖尿病代謝内科部長 馬屋原 豊  
当センター栄養管理室管理栄養士 山根 泰子
- (2) 相愛大学学生と教員が考えた体験学習コーナー  
テーマ<もっと野菜を食べよう>  
食育SATシステムによる食事診断、血糖値・体脂肪・筋肉量測定・  
野菜コーナー(野菜クイズ・野菜の量や料理の展示)・糖尿病関連  
パネル展示・糖尿病を予防する食事
- (3) 個別相談 当センター医師、看護師、栄養士
- 申 込 10月3日(月)～31日(月)(先着200名)
- 専用電話 06-6692-2222 または  
当センターホームページ「セミナー申込み」から

## 【(再) 甲状腺外科外来を開設しました ー耳鼻咽喉・頭頸部外科ー】

このたび、耳鼻咽喉・頭頸部外科では、甲状腺外科外来を開設いたしました。  
今後甲状腺外科の検査・治療の窓口として院内外からの診察依頼を幅広く受け付け  
ます。

甲状腺疾患の患者さんを対象に、即日超音波検査(細胞診を含む)と血液検査を行  
い、速やかに診断を行います。

外科的な治療が必要な場合は手術治療を行います。

さらにバセドウ病や悪性甲状腺腫に対して、I-131によるRI治療が必要な場合  
も、画像診断科、放射線治療科と連携して治療を行います。

内科的な投薬治療を行う場合は、糖尿病代謝内科と協力して診療を行いますが、慢  
性期の疾患の場合は、地域のクリニックをご紹介させていただきます。

開設日 月・水・金の午後

お問合せ先 耳鼻咽喉・頭頸部外科 主任部長 坂田義治

## 【(再) 皮膚良性色素性疾患用の最新式のレーザー装置が導入されました

### ー形成外科ー】

4月から、従来使用していましたQスイッチ付きアレキサンドライトレーザーに代わり、最新  
式のQスイッチ付きキルビーレーザーを導入いたしました。

対象疾患は、Qスイッチ付きアレキサンドライトレーザーとほぼ同じですが、従来保険適用

であった太田母斑、異所性蒙古斑、外傷性色素沈着に加え、以前から治療要望の多かった扁平母斑も保険適用になりました。

また、保険適用はありませんが、一般に「しみ」と呼ばれる色素班の中でも老人性色素班等(肝斑は効果はありません)はこのレーザーに良い適応があります。

お気軽にご相談ください。

なお、レーザー治療は毎週月曜日の午前中に行っていますが、完全予約制となっており、事前に一度当科外来をご受診のうえで、予約を取っていただき、専門医の診察・治療を受けいただくこととなります。

### 【(再) 診察予約変更センター設置－6月から11の診療科において

#### 診察の予約日・時間の変更が電話でできるようになりました！】

当センターでは、6月から11診療科を対象に、電話で診察時間の予約の変更ができるよう「診察予約変更センター」を設置しました。

これは、当センターが進めています「患者さんにとって利便性の高い病院づくり」の一環として導入整備したもので、急な用事や体調変化で予約された日時に診察のために来院できなくなった場合に、電話で日時の変更ができるサービスをご提供するものです。

予約変更を電話でできるのは、以下の診療科です。是非、積極的にご活用ください。

なお、このサービスは初診に関しては行っておりませんので、ご注意くださいますようお願いいたします。

(電話番号) 06-6692-1201(代表)にダイヤルして

「予約変更センター」と言ってください。

(受付時間) 午後3時～午後5時(平日のみ)

(対象診療科) 内科・呼吸器内科 消化器内科 糖尿病代謝内科 整形外科

免疫リウマチ科 皮膚科 形成外科 腎臓・高血圧内科

神経内科 脳神経外科 耳鼻咽喉・頭頸部外科

### 【(再)入院治療費の概算を予めお知らせすることを始めました】

昨年度実施しました患者満足度調査におきましては、入院時にいくら程度医療費がかかるか事前に教えてほしいというお声が多く寄せられました。

このため、当センターにおきましては、入院患者さんへのサポートを総合的・集約的に行う入院センター(やすらぎセンター)を5月から整備したことに合わせまして、ご入院申し込み時に予め標準的な治療を行った場合の概算費用をお知らせするサー

ビスを開始しました。

お知らせの方法は、当面、患者さんにお渡しする「患者さん用クリティカルパス(治療計画書)」の中に記載してお知らせする診療科と、口頭でお知らせする診療科に分かれますが、最終的にクリティカルパスに記載する方法に統一をすることになっています。

## 今月の催し

### 【(新) 大好評！！】

#### 相愛大学連携・外来糖尿病教室～知って得する！糖尿病の付き合い方～】

日 時 10月19日(水) 午後2時～4時30分

場 所 本館1階アトリウム

内 容

(1) 糖尿病神経障害～やっかいな痛みの原因～

糖尿病代謝内科医師 片岡 隆太郎

(2) 私にもできる運動療法～腰やひざが痛くてもできること～

理学療法士 乾 純子

(3) 気をつけよう、食欲の秋

栄養管理室管理栄養士 笠井 香織

午後1時から相愛大学学生、教員による食育SATシステムによる  
食事診断も合わせて実施

### 【(新) 今月の すこやかセミナー】

#### (1) ワクチンで防げる子どもの病気(VPD)について

日 時 10月13日(木) 午後2時～3時

場 所 3階保健教室

講 師 小児科副部長 楠本 義男

#### (2) あなたが主役！知ってお得な子育て・孫育て

日 時 10月28日(金) 午前11時～12時

場 所 3階保健教室

講 師 看護部 産婦人科病棟 師長 椿野 幸美

小児科病棟 師長 田家 由美子

(参加費無料)



### 【(新)コスモス会作品展】

患者さんとそのご家族、当センター関係者による手作り作品の展覧会！

日 時 10月17日(月)～19日(水) 午前10時～午後5時

場 所 3階講堂

作 品 絵画・書・写真・彫刻・生け花・人形・アートフラワー・押し絵・  
編み物・折り紙・粘土細工・織物・パッチワークなど

### 【(新)第14回相愛大学連携コンサート】

—秋深きヴィオロンの響きは紅葉色～バイオリンとピアノのアンサンブル—

日 時 10月25日(火) 午後2時～

場 所 3階講堂

出 演 待谷 翠(バイオリン)

中谷 友香(ピアノ)

演奏曲目 NHK連続テレビ小説「おひさま」～たいせつなあなたへ(渡辺俊幸)

NHK連続テレビ小説「てっぺん」～ひまわり(葉加瀬太郎)

情熱大陸(葉加瀬太郎)

歌の翼に(メンデルスゾーン＝ハイフェッツ)

ロンドンデリーの歌(アイルランド民謡＝クライスラー)

メリー・ウィドー・ワルツ(レハール)

星に願いを in jazz(ハーライン)

チャールダーシュ(モンティ)

### 【(新)大正琴のコンサート】

大正琴の素敵な音色に耳をかたむけ、心癒されるひとときをすごしませんか！

日 時 10月31日(月) 午後2時～3時

場 所 3階講堂

出 演 アムール・エ・レーヴ(大正琴アンサンブル)

### 【(継)現代美術空間—病院ギャラリー 第4回企画展—開催】

「やすらぎの木版作家—浅野竹二

初期情景版画展—新京名所と新大阪風景」

日時 平成23年12月22日(木)まで

場所 本館2階ギャラリー (入場無料)

浅野竹二は、1900年京都生まれ。京都市立絵画専門学校で日本画を学ん

だ後、油絵を始めますが、再び日本画を描き始め、日本画家として活躍します。1930年頃からは、木版画の制作を始め、写実的な「名所絵版画」を制作する一方で、自由に自分の感性を表現した『創作版画』を制作し、大胆なフォルムと色彩で構成されたユーモア溢れる作品を発表しました。

今回の企画展では、このような浅野竹二の作品の中で、初期（1930年代初め）の作品の「名所絵版画」の中から新京名所と新大阪風景を取り上げました。なお、本作品展は、大阪府立現代美術センターのご協力で開催しております。

### 【(継) 予告：第3回やすらぎ寄席—講談の会】

日時 11月29日（火）午後2時～  
場所 本館3階講堂  
出演 女流若手講談師 旭堂 小二三  
主催 万代やすらぎ亭  
(入場無料)

## Topics

### 【(再) PET-CTの整備に着手！】

かねてよりお知らせしてきましたPET-CTにつきましては、先月競争入札の結果日立メディコ株式会社に整備事業者が決定し、このたび整備に着手しました。

竣工は3月になる予定ですが、この機器の整備により、がんの診断機能が一層強化され、また地域の開業医の先生方からの検査依頼にもお応えできるようになるなど、これまで以上に南大阪地域のがん拠点病院としての役割を果たしてまいります。

### 【(継) 新名所：やすらぎのプロムナード—北側通路周辺—】

当センターでは、「やすらぎの医療空間」づくりの一つとして、本館と中央館の連絡通路から北側に伸びた通路周辺の緑地の再整備を行い、患者さんやお見舞いの方などに“緑の憩いの空間”を楽しんでいただいております。

ベンチや丸テーブルでタリーズのコーヒーやえびすカレーのテイクアウトを持ち込んでランチを楽しんでおられる方も多くみられます。

10月に入り秋色は一段と深まり、ひとときのやすらぎと潤いを与えてくれる空間を楽しんでいただけるものと思っております。

是非、お立ち寄りください。

## 今月のコンシェルジュ

### 【(新) コンシェはどんな人？ーほんわか優しい樋口さんー】

樋口コンシェルジュ「私が当センターに勤務してから9月ではや1年。毎日自転車で25分の距離を通勤しています。真夏の日射しのなかでの自転車通勤は大変ですが、最近涼しくさわやかな風が感じられるようになりました。

仕事帰りに疲れを癒すため長居公園の緑の中を通って帰ることがありますが、豊かな自然と緑にとっても気分が落ちつきます。当センター内の私のおすすめの場所は1F北側出口を出てすぐの木々に囲まれたプロムナードです。ベンチやテーブルもあり、特に夕方は緑の間から優しく夕日が差し込みやすらげる空間です。ホッと一息つきたい方、是非お立ち寄りくださいね。」

## その他のお知らせ

### 【(継) やすらぎ通信はメルマガで！】

「やすらぎ通信」は、メルマガでも配信しております。ご希望の方は、当センターホームページからアドレスを登録していただきますようお願いいたします。なお、ホームページのご検索は、「大阪府立急性期・総合医療センター」にて可能です。

### 【(継) 医療費の支払いはキャッシュカードでできます！】

当センターの医療費自動精算機は、デビットカード対応となっておりますので、ほとんどの金融機関のキャッシュカードでお支払いができます。

これらの金融機関はJ-Debitに加盟していますので、キャッシュカードに自動的にデビット機能が付与されているからです。(ただし、キャッシュカードでお支払いいただいた場合は即座に口座から引き落とされることとなるため、口座に引き落とし金額以上の残高が必要ですのでご注意ください。)

このため、医療費の支払いのための現金を持たなくても、キャッシュカードさえあればお支払いが可能です。

また、引き落としの手数料は不要ですので大変便利です。是非ご利用ください。なお、合わせて一般のクレジットカードでのお支払いもできます。

当センターは、当センターが「希望の医療空間」「喜びの医療空間」「やすらぎの医療空間」となるよう日々努力をしています。